登校拒否・不登校問題

「第２４回全国のつどいin長崎」

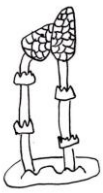
実行委員会ニュースNO２

第２４回全国のつどいin長崎実行委員会事務局発行
【事務局連絡先】特定非営利活動法人フリースペースふきのとう
〒857-0874　　佐世保市京坪町８－１
TEL 0956-25-6222　FAX 0956-76-8131

すてきなギターと歌声に癒されて・・・・(*^-^*)

2019年3月24日（日）に開催した第２回実行委員会、今回も県外からたくさん参加してくださり、東京、埼玉、大阪、京都、福岡、佐賀、熊本、そして長崎県内離島からの参加も含め総勢６１名が集まりました。
オープニングで、歌う僧侶「南無」さんの伸びやかな歌声と詩の内容に癒されて会議がスタートしました。

実行委員長あいさつ♪



今日はお彼岸のなか、大勢の方にご参加いただきありがとうございます。午前中に、子どもの成長・発達を親や周りの大人はどう支えていくのか、そのために互いに語り合い聞き合うことが大切である、ということを話させてもらいました。この後はつどいの具体的な内容の話し合いを進めていきたいのでよろしくお願いします。
（澤田先生のミニ学習会要旨をニュースの最後に掲載しています）

自己紹介♪

親の立場からは、不登校の子どもから学んできたことのエキスがぎゅっとつまっているような、そんな発言がいくつもありました。「娘と関わりながら、人に合わせなくていいんだと、娘に学ばせてもらっています。」「わが子はニュースで事件の加害者を見て『この人はどんな人生を送ってきたのか』と絶対に責めません。そういう姿に親の私が学ばされます。」また、当事者の若者が「自分は何者か？僕ってな

んだろうと考える。でも今日こうやって自己紹介をしなければ考えなかったかもしれない。」と発言され印象に残りました。行政や民間の支援者の方も多く参加されていて、学びたい、とか、できることをやっていきたい、という思いが伝わりました。小学校３年から不登校だったという若者が、自己紹介がわりにギターと歌を聞かせてくれました。「ストレンジカメレオン」という歌でした。あの歌声が今も耳に残っています。

第１回実行委員会できまったこと♪

前回決まったことを再度確認しました。

遠距離の実行委員会参加者の交通費補助について、

「離島からの参加者に少しでも補助が出せないか」

と事務局で検討した結果、コンベンション協会からの助成金を当てられるかもしれない、という提案がなされました。

予算について♪

事務局で作成された予算案をもとに検討し、承認を受けました。

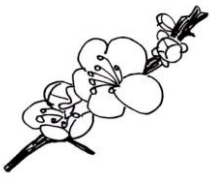
ホテルより：全ての部屋で７２室。３１日は全部屋押さえている。前泊に関しては３分の１程度押さえているが調整可能。７年前の宿泊が３５７名とあるが、ホテルの定員は２８０名程度。宿泊が前回程度と考えると１２０名程度あふれる予想。隣の施設花みずきが和室中心に１２室程度、相談のうえ調整したい。

「会場問題では毎年悩みに悩んでいる。オールインワンでできる場所、講演も分科会もこんもりと一カ所でできる環境はありがたい。」と発言がありました。

キャッチフレーズ♪

事務局提案「そんままでつながろう」西海の地させぼへ

後半の文言に関しては
- 西海の地（事務局提案）
- 西海（再開）の地
- さいかいの地
- 西海（さいかい）の地



の４つの案が出て、事務局持ち帰り次回再提案、となりました。

タイムスケジュール♪

１日目に基礎講座を持ってくる、という提案が承認されました。

オープニング♪

事務局提案が承認：お琴と尺八の演奏（「ふきのとう」がお世話になった方）

チラシ・要綱の文言について♪

長崎では８０５０問題、ひきこもり、高齢などの問題が深刻。要項の名称を変えるわけにはいかないが、～語り合おう･･･～の下の文言「わが子の登校拒否・不登校に悩む」のところに「ひきこもり」も入れたい、という事務局提案に対して「全国連絡会は、学校教育との関係を軸足にしてそこを揺るがしてはいけないと思う。そこを考えたうえでの提案だと思うので、まずは今年限りということでやってみては？」との意見が出て承認されました。

特設分科会♪

「８０５０の特設分科会を入れたい。佐世保の問題として外せないので特設として作りたい。

当地の事情に即した特設分科会としてやっていけたらと思いう」という提案が承認されました。

基礎講座♪

「家庭で」村上公平さん　「学校で」高垣忠一郎さん　で承認されました。

記念講演♪

① 松﨑運之助さん：元夜間高校教師。山田洋次監督「学校」のモデル
② 服部祥子さん：精神科医　元大阪人間科学大学教授　子育てに関する著書多数
③ 芦沢茂喜さん：「ひきこもりでいいみたい～私と彼らのものがたり」著者
山梨県職員
④ 斎藤眞人さん：福岡県私立立花高校校長

①～③は事務局提案で、それぞれ資料あり、④は実行委員会で参加者提案
多数決をとりましたが････（松﨑運之助さんが多数だった）

〇こういう決め方でいいのか？提案された候補者についてもっと議論してもいいのでは？即決める、のはおかしくないか？
〇候補者のスケジュール、講演料などの問題があるので、聞きたい思いだけでは決められないこともあるのでは？
〇やはりもう少し議論、提案の時間を確保してはどうか？

などの意見があり、事務局に持ち帰って話し合い、次回再度提案ということになりました。

参加者の感想より♪

初めて参加させていただきました。子どもが不登校だったとき、どうしようもない孤立感にさいなまれました。親の会に参加するようになりましたが、専門家のお話を聴くチャンスがなかなかなく、じれったい思いでした。今回、参加して、こんな組織があり、専門の方々と共に、子ども支援をする世界があることを知り、目の前が開けたように思いました。ありがとうございました。（福岡県・父母）

澤田先生のお話は、期待どおりの内容でやっぱりやっぱり聴きに来て良かったです。自分自身の癒しにもなりました。会議も、いろんな意見が出しやすい雰囲気で良かったと思います。（長崎県・父母）

第３回実行委員会のご案内♪

日時：**４月２１日（日）13：00～17：00**

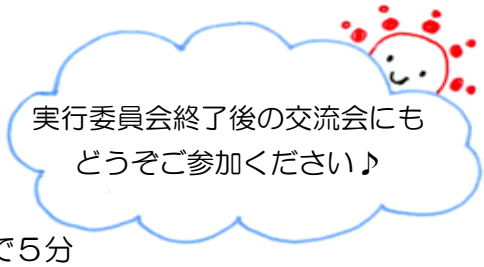
場所：**アルカス SASEBO　３F 大会議室**

佐世保市三浦町２-３　TEL0956-42-1111

交通アクセス：

JR 佐世保駅から徒歩５分

西九州自動車道させぼみなとインターから車で５分



全国のつどいin長崎　ミニ学習会

『自分』と『他者』との関係

天神病院　澤田　修

〇脳は、出産時２５％、３歳で８５％、１０歳で９８％が完成し、出来上がっていく過程で環境の影響を受ける。幸せな環境で育つ子どもは、幸せを感じる部分や文化的な部分の発達が起こるし、劣悪な環境で育つ子どもは、そこで生きのびていくために必要な脳の部分が発達し必要のない部分は消えていく。生きのびるために傷ついた脳を作らざるを得ない。しかし、環境が変わる（良くなる）とそれまでの脳の発達の歪みは取り戻すことが出来る。ダメージを受けた脳も環境を改善することで回復する。つまり関わりの中で変わる。

〇資質という面を考えた時、子どもには、①タンポポのような強さを持つ子どもと②蘭のような感受性の高い子どもがいる。今の社会は①を要求する。強いもの優先、弱いものは後回しの傾向。なぜできない、親のせい、泣き言を言うな、という捉え方。②の子どもたちはそれにそった環境で育つと芸術的才能が育つ。子どもの資質を理解すべき。

〇子どもは、国、社会、学校、家庭、父母と何重にも大事にされる必要がある。社会の不安定さや混乱が学校や家庭に影響し、父母が影響を受け、子どもに伝わる。それは父母で防げるような簡単な問題ではなくなっている。

〇子どもが不安困難悩みを抱えてそれを言葉で言えない時、「私を心配して」という思いが身体の症状不調として現れる。周りが「そんなにたいしたことない」という対応で、これを拒否し続けると、子どもは自分を責めるようになる。

〇学校で、挨拶がいつもと違う、というちょっとした変化に、先生たちが敏感になっておく必要がある。大事なのは、先生が私を気にかけてくれている、見てくれている、と思えること。

〇自分はこれでいいさ･･･となりにくい。これが持てないと対人関係で疲れて

○「学校へ行けない」「学校へ行かない」という子どもからの意思表示は、今までの「家族の形」「親や家族の価値観」「親子観」「親の人生観、人間観」などを根底から揺さぶる出来事でもある。子どもの必死の訴えに対して「自分たちは何を求められているのか」を考え、話し合っていく。

○子どもは、今この瞬間を必死で生きている。先のこと、将来のことを考え気にしているのは大人。子どもの今の気持ちに必死で付き合っていくしかない。
苦しみながら必死で生きている子どもを信じていく。そのためには「本音を出せる・聞いてもらえる」仲間や場を持つことが大切。そして子どもも親も孤立しないこと。

○「すべての行動にはわけがある」当たり前のことだけど、ないがしろにされている。これを常に考えることが大事。「その行動には必ず背景がある、わけがある」これを一生懸命考えてくれる人がいる、そのことがその人の生きていく支えになる。

○心は入れ物（器）である。そこに物が詰まりすぎると壁がやぶれる。そして混乱パニックから発病発症に至ることがある。心に詰まってきたものを吐き出す、聞いてもらえる人に話すことで入れ物に余裕ができると、悩む子どもを抱えることもできる。「話す」ということは、言葉に置き換えて吐き出すこと。「聞く」ということは、吐き出された言葉を自分で大切に抱えること。

○第１回実行委員会の自己紹介で３時間を使って参加者がひとりひとり話した。自分の思っていることを自分の言葉で話す場だった。子どもや父母、つまり当事者の話を「つどいの場」で私自身が聞くということ、学ぶこと。自己紹介では、自分のことを振り返って話される方が多かった。子どもによって気付かされた、自分が変わっていった、と。自分の不安も話せるようになってきた、自分をオープンにできる。つらくて悲しくて、でも聞いてもらうと楽になった。これが子どもにも影響していく。みなさんの話を聞いて、すごいなと思う私がいる。当事者でない人（例えば私）こそ、地を這いながら通り抜けようとしている人たちのことを聞いて、学んでいく必要があると思う。先日沖縄に行って感じたのも、沖縄の大変さを抱えて生き抜いてきた人たちの話を聞いて、その生きる力を学ぶ必要がある、ということ。